

～ 異文化理解 ～

(文責) 教務主任 向井茂都子

先日、中学部担任より「道徳の授業で『異文化コミュニケーション』を扱います。ロールプレイをしますので参加してください。」と言われたので、中学部副担任として大いに演技しようと喜び勇んで参加しました。中学部生徒たちが役になりきっている姿に驚いただけでなく、「異文化理解」とは非常に難しいことだと今更ながら感じる1時間となりました。

ロールプレイの舞台は、様々な架空の国の代表が集まった国際会議場。それぞれの国の「その国独自の当たり前だと思っている文化」の書かれたカード(一例を挙げると、人と一切目を合わさない文化)が配られ、その与えられた役になりきって会議を進めます。しかし、会議を進めるうちに文化の違いから違和感が生じていきます。ロールプレイをしている中でその違和感に皆が気づき始めます。

ロールプレイが終わった後の感想に、私自身は「相手に失礼な態度をとられたと感じた」と書きました。中学部5人よりも私が一番感情的になっていたようです。生徒の感想を見ると「とりあえず違うと思ってもらって受け入れる」「変だなと思ったら、『もしかしてあなたの国ってこういう文化ですか?』と直接聞くのがよいと思った」と書かれていました。

一番柔軟でないのは子供より大人なのかもしれないと反省しました。これは違う国同士に限ったことではありません。日本でも、いやもっと小さな規模で、学校やクラスでも同じように、違う文化・他者を認めるということを改めて意識せねばならないと思いました。

ふと、SEKAI NO OWARI の「Dragon Night」の歌詞を思い出しました。

——— ♪ 人はそれぞれ「正義」があって 争い合うのは 仕方ないのかもしれない
だけど 僕の嫌いな「彼」も 彼なりの理由があると思うんだ
(中 略)
人はそれぞれ「正義」があって 争い合うのは 仕方ないのかもしれない
だけど 僕の「正義」がきっと 彼を傷付けていたんだね ♪ —————

私は「折衷(せっちゅう)」という言葉が好きです。折衷とは「両方の極端を捨て、ほどよいところをとること。いろいろな物からいいところをとり、一つに合わせること」。20代の頃までは「自分の意見をしっかり持ち、それを突き通す」ことが優先順位の上位でしたが、年とともに意識が変わりつつあります。



教室でも、自分の「当たり前」とクラスのあの子の「当たり前」が違った時に、「それおかしい! 変だよ!」と非難するのではなく、それを一度受け入れ、認め合える子供たちであってほしいと願っています。今校内を眺めると、子供たちは考え方が違う友達がいても、非難したり責めたりせず認め合っているように見えます。大人である私も「自分の当たり前」を振りかざさないように、柔軟な心を持っていたいと思います。

結婚した当初、丹精込めて作った肉じゃがを食卓に出すやいなやマヨネーズをかけられて、「そんな文化は理解できない!」と他文化を認めず激怒した自分から、今は子供たちとともに少なからず成長できていると感じています。

【中学部 学級自慢】

ミライ探求

活動中です

6月27日(火)に中学部はキャリア教育の一環として「ミライ探求」(企業訪問)を行いました。

この取組は、生徒が事前に概要を調べ、直接取材をすることで、自らの将来について考える貴重な機会とすることを目的としています。

今回は、チューリッヒにある世界有数の再保険会社である『New Reinsurance』を訪問しました。ここで働く日本人を含む4名の方々に、取材活動を行いました。スイスで活躍するすてきな大人の方に出会い、インタビューをしたことで、これから自分たちが進む「ミライ」の幅広さやだいご味を感じ取り、「社会」に出ていくことが楽しみになったことが生徒たちの表情から伝わってきました。この活動のまとめは学習発表会でプレゼンする予定です。御期待ください。



企業訪問 & インタビュー



サマーハイキング、サマーキャンプに行ってきます！

いよいよ今週は、待ちに待ったサマーハイキング(小1、2年生)とサマーキャンプ(小3年生以上)です。一人一人が、目的意識をもち、友達と協力しながら準備してきました。

体調管理と持ち物の準備等をよろしくお願いします。



交通安全教室

6月8日(木)交通安全教室を実施しました。低学年は徒歩講習、小学3年生以上は自転車講習を、州警察の協力を得て実施しました。

